

介護老人福祉施設 田子のまち 2023 年度事業報告

今年度田子のまちの大きなトピックスは、10 年記念イベントの開催と感染症対策でした。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行し、全国的にイベント等の規制緩和が進み、コロナ禍以前の暮らしが戻ってきました。しかしながら、医療や介護現場では、それと全く関係なく、依然として高水準の感染対策が求められています。入居者の豊かな暮らしを保障していきたい気持ちもあり、行事や外出、面会の在り方を議論し、少しずつでも前進できたと思います。インフルエンザを含め施設内感染は 3 件あり、残念ですが数名の入院者が出てしまい、短期入所の事業縮小を招く結果となりました。職員や高齢者施設に求められる感染対策の限界を感じつつ、感染症 BCP（事業継続計画）作成や訓練等、感染症と向き合うことに重点を置き、次年度以降も感染対策のアップデートを重ね、入居者の暮らしに彩りを添えられるよう努めていきたいと思っています。

10 周年記念イベントでは、久しぶりに外部の方のお力添えを頂きました。入居者には歌や踊りを楽しんで頂き、ボランティアの皆さんには活動できる場を提供することができました。実行委員がそれぞれのリーダーシップを発揮し、笑顔あふれるイベントとなり大成功だったと思います。開所から 10 年に思いをはせ、これからも続く施設の在り様を考える機会にもなりました。地域に根差し、入居者、ご家族、地域の方々、そして職員に愛される施設づくりを目指していきたいと思っています。

また 2023 年度は施設全体で介護署名や福祉ウェブに参加し、社会保障運動を前進させることができました。今後も命や暮らしを守る医療介護制度の情勢を注視し、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりに貢献できればと思います。

【2023 年度実績】

・長期入居

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用者数	2,400	2,480	2,400	2,480	2,480	2,400	2,480	2,400	2,480	2,480	2,320	2,480	29,280
実績利用者数	2,380	2,419	2,299	2,454	2,474	2,341	2,420	2,262	2,362	2,349	2,220	2,407	28,387
稼働率	99.2%	97.5%	95.8%	99.0%	99.8%	97.5%	97.6%	94.3%	95.2%	94.7%	95.7%	97.1%	97.0%
平均介護度	3.87	3.89	3.89	3.88	3.91	3.87	3.88	3.88	3.80	3.87	3.83	3.80	3.86

・短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用者数	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	290	310	3,660
実績利用者数	233	224	250	291	243	263	273	292	289	266	248	213	3,085
稼働率	77.7%	72.3%	83.3%	93.9%	78.4%	87.7%	88.1%	97.3%	93.2%	85.8%	85.5%	68.7%	84.3%
平均介護度	2.76	2.65	2.70	2.66	2.53	2.35	2.41	2.14	2.11	2.37	2.04	2.20	2.41

I 長期部門

【長期入居】

2023 年度総括

今年度は、稼働の回復に力を入れて取り組みました。開所からずっと年間目標に届かない年が続いていましたが、初めて 2022 年度の 96.4% で目標を達成しました。これは、田子が始まって以来の快挙です。そして、2023 年度はそれを上回る稼働 (97.5%) を達成することが出来ました。空床が長期化しないようにという目標を立てていましたが、退居されてから実調では、入居まで 1 ヶ月以上となることもあり、後半にかけ、お看取りの方が増えた時期には、事前に状況を確認して次の入居を決定しておくように進め方を検討し、変更しました。

そして、職員の意識も大きく変わりました。その時のユニットの状況把握し、情報提供やお部屋の準備などを一緒に行いながら入居を進めていくことで、職員の新規受け入れへの不安も軽減出来、結果稼働にもつながってきました。

待機者も年々減少傾向にあります。入居を待っている方ひとり一人の状況把握と新規申し込みの方にはすぐに状況確認し、田子を選んで待っている方々の要望に応えられるよう、来年度も取り組んでいきたいと思えます。

2023 年度取り組み

- ① 年間 16 回の入居判定委員会を開催しました。お看取りの方が増えた際は、事前に委員会内で次の入居の方を決定しました。
- ② 入居待機者へ状況確認の連絡をし、待機者リストを整理しました。また、随時確認の連絡をとりました。
- ③ ショートステイ、風の音・史の相談員と情報を共有し、入居に繋げました。

2023 年度

【要介護度別】 ※3 月末時

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0 名	1 名	29 名	33 名	15 名

【保険者別】

仙台市	多賀城市	塩釜市	柴田町	七ヶ浜町	石巻市	気仙沼市
55 名	6 名	9 名	1 名	1 名	1 名	1 名
岩沼市	東松島市	福島市	大館市			
1 名	1 名	1 名	1 名			

【性別・平均年齢】

	人数	平均年齢(3月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	11名	84.2歳	71歳	95歳
女性	67名	87.7歳	65歳	102歳
計	78名	87.2歳		

【入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	1名	2名	1名	1名	1名	2名	2名	1名	3名	3名	1名	2名
退居	2名	1名	1名	2名	0名	2名	4名	2名	3名	1名	2名	2名

【施設ケアマネジャー】

2023年度総括

今年度はコロナが5類へ移行したことで、入居者様一人ひとりの楽しみや生きがいについて、昨年度よりも前向きに多職種で考えて取り組むことができたと思います。また、その楽しみや生きがいについても、ユニット職員でご本人の意向を確認して24時間シートに落とし込む仕組みを作れたことで、具体的な意向をプランに繋げられるようになりました。24時間シートは、来年度、さらにアセスメントとしても活用できるようにADL等細かな情報を網羅していける書き方を検討し、ユニットに周知していきたいです。合わせてケア記録についてもまだ内容が不足している部分があると感じています。どうしたらその方の生活が見えるような記録になるかをユニット職員と一緒に考えながら取り組んでいきます。

ご家族との情報共有は、ユニット職員を中心にやり取りがスムーズにできるようになってきました。来年度も引き続き、必要な場面で必要な職種が直接ご家族とやり取りできるようにサポートしていきます。

その他、今年度は相談員との業務の割り振りも見直し、また月1回のケアマネ会議にも相談員に参加してもらうようにしました。相談員との連携は不可欠と改めて感じています。相談員だけが、ケアマネだけが、という属人的な業務を減らし、全体で入居者様を支える体制の強化ができるように、来年度も引き続き情報共有の場を設けていきたいと思っています。

2023年度取り組み

- ① 認定更新申請について、仙台市28名、塩竈市2名、柴田町1名の計31名、また区分変更については1名の申請を行いました。
- ② 定例のサービス担当者会議以外（新規入居、本プラン移行、退院、看取り移行等）の担当者会議は68回開催し、そのうちご家族の参加は5割弱程度でした。
- ③ 4月にケアマネジャー主催で看取りの学習会を開催しました。

- ④ 自己研鑽のため、各種研修会（仙台市主催、宮城県ケアマネジャー協会主催等）に参加しました。
- ⑤ ケアマネ会議の中で、相談員とも連携を図れるように情報共有を行いました。

【春風】

2023 年度総括

入居者様が自分らしく過ごせるよう職員間のコミュニケーションを密にとり、情報を共有することでケアに反映させることが出来ました。少しずつ入居者様の好みやこだわり、小さな身体的変化にも気付けるようになってきたと思います。ケアに反映させるために入居者様との普段の関わりがどの位大切なものなのか実感しました。

普段のケアだけで1日が終わってしまうということが多かった為、入居者様にとって楽しみややりがいはいか？入居者様の想いに寄り添っているか？職員一人ひとりが考え、向き合えるよう取り組んでいきたいです。また、職員が困った時に助けを求められる関係や雰囲気ユニットとして作っていくことを目標にしたいです。

2023 年度取り組み

- ① 入居者様の想いに寄り添ってケアをし、他職種と情報を共有しました。
- ② 季節の行事やお誕生日のお祝いを企画しました。
- ③ ユニット会議を定期的で開催し、入居者様一人ひとりの情報の共有をし、ケアの検討をしました。
- ④ ユニット内の設えを見直し、清潔の保持、環境整備をしました。

【ふたば】

2023 年度総括

今年度は、入居者様が笑顔で安心した生活が送れるように日頃からコミュニケーションを多く図ることを意識しました。生活の中で楽しみが持てるように、ケアを実施し、実施してどうだったか振り返りを行いました。しかし、自発的に訴えがない方へのアプローチが少なかったように思います。来年度は、ご家族の情報も取り入れながら、活かしていきたいと思いました。

また、今年はお看取りの方が多かったです。お一人にゆっくり時間を持つまでにはいきませんが、面会時にじっくりご家族とお話をして、他部署との連絡を密に図りながら、今出来るケアの実施に努めました。その方らしい最期が迎えられるよう、チームで行う大切さも学ぶことが出来ました。

職員間では、相手のことを考え、思いやりを持ちながら行動することが少なかったので、

来年度に繋げていきたいと思ひます。

2023 年度取り組み

- ① 入居者様の希望に沿ひ、安心して生活出来るよう、個別の企画をして実施しました。
- ② 他部署と日々情報共有しながら入居者様の状態に合わせながらケアを行いました。
- ③ 月に1回、ユニット会議を開催し、いい雰囲気の中意見交換を行いケアに繋げました。また、協力ユニットへも情報共有し周知出来るように働きかけを行いました。
- ④ 季節に合わせ、入居者様のご希望に沿ひながら行事や設えを行うことが出来ました。
- ⑤ ご家族とメールやお電話などで定期的に様子をお伝えすることが出来ました。

【夏月】

2023 年度総括

今年度は“あなたの「声」と「笑顔」”を大切に4つの目標を掲げ取り組んできました。一つ目に「声」を大切にし、必ず記録に残し24時間シートに盛り込んでいく事です。どのように時間を確保して行くべきか来年度の課題として残りました。しかし、小さなことでもメモを活用することで、職員間での情報共有や意見交換を行うことが出来ました。二つ目に「笑顔」を大事に、コミュニケーションを図る事です。忙しい時は、つい笑顔を忘れてしまいがちでしたが、職員、入居者様、ご家族に対して気持ちよく挨拶をする事、声のトーンに気を付ける事を意識しました。三つ目に施設ではなく「家」を目指した空間にする事です。業務に追われ、居室の環境整備が出来ませんでした。ご家族が面会に来られた際などは一緒に写真を撮り、お部屋に飾らせていただき、寂しい気持ちにならないよう工夫をしました。来年度は居室の整理整頓が目標です。四つ目に多職種やご家族との連携を図る事です。多職種とは何かあればすぐに誰でも相談するよう、それぞれが心がけ取り組むことが出来ました。ご家族への体調変化の際連絡が遅れてしまい、ご面倒をかけてしまいましたが、その後は「すぐに連絡をする」「お手紙や写真を活用し日々の様子をお伝えする」を職員間で確認し、信頼関係構築に努めました。

今後もチーム一丸となり、入居者様の生活を「みんなで一緒に」支えていく事を大切にしていきたいと思ひます。

2023 年度取り組み

- ① 毎月季節に合わせた行事を企画、開催することが出来ました。個々の要望に合わせた外出、食事作りが出来ました。
- ② 毎月のユニット会議を開催し情報共有をすることが出来ました。
- ③ 検討事項があった際はメモを活用し職員全員で意見交換を行うことが出来ました。
- ④ 行事や日々の様子の写真をご家族に郵送しました。

【すずか】

2023 年度総括

それぞれの入居者様らしい生活が送れるよう職員一人ひとりが入居者様と向き合ってきました。みんなで作るユニットを意識しユニット会議等の場で意見交換もたくさんしながらみんなが納得し根拠のあるケアが出来るよう心掛けました。職員間での連携、協力体制にはまだ課題も多くあります。困ったときに助けを求め合える関係を築くことを目標にしたいです。

今年度は、お看取も経験しました。急激に状態が変化していく中だった為、入居者様の対応に追われてしまい振り返るとこれで良かったのか、もっとしてあげられることがあったのではないかと後悔が残りました。状態が落ちたからではなく、普段からの入居者様との関わり、他職種との連携、ご家族との関係づくりを丁寧にしていくことの大切さを実感しました。

反省点も多くありますが、職員の協力体制等少しずつ改善していることもあるよう思っています。出来たことを自信に入居者様、職員が過ごしやすいユニットを目指し職員一丸となって取り組んでいきたいです。

2、2023 年度取り組み

- ① 入居者様の想いに寄り添い一人ひとりに合ったケアを行えるよう努めました。
- ② 日々の業務内容を見直し分担する事で職員一人ひとりの負担軽減に努めました。
- ③ ご家族と良い関係作りの為、電話やメール等で日々の様子をお伝えしました。
- ④ 毎月季節の行事やお誕生日のお祝いを企画しました。
- ⑤ ユニット会議を定期的開催し、情報の共有やケア方法の検討をしました。
- ⑥ 多職種への報・連・相を細目に行い連携に努めました。
- ⑦ ユニット内の設えを見直し、清潔の保持、環境整備をしました。

【秋晴】

2023 年度総括

みんなが安心して過ごせる“暮らし”と、みんなが気軽に話せる環境をつくることを目標にしてやってきました。入居者様とお話しし想いを汲み取り安心して暮らせるようにできたかと思います。しかし、日々の慌ただしく業務に追われる中でなかなか入居者様とゆっくりお話しできる機会が少なかったです。来年度は、手を止めて入居者様とお話しする時間を少しでもとっていただけたら良いと思います。

職員間では思ったことを話しして申し送りや情報交換も出来たと思います。来年度もどんなことでも職員同士で意見し合える職場にしていきたいです。

2023 年度取り組み

- ① 入居者様とお話しできる時間を作り、入居者様の声に耳を傾け、入居者様の想いを聞きました。普段の何気ない会話の中からも情報を得ました。
- ② 入居者様ひとりひとりの状態を把握し、職員間で情報を共有しました。毎日変わったことや気になったことを記録に残し、変化に気付けるようにしました。
- ③ 感染対策を徹底し、感染症を蔓延させないように努めました。手洗いや消毒を徹底し、職員から入居者様に感染症を広めないようにしました。
- ④ 学習会を通じて、看取りケアについて知識を身につけ、ユニットでの看取りケアに活かしていきました。
- ⑤ 月1回ユニット会議を開催し、ユニットの課題、入居者様の想いなどを話し合いました。協力ユニットとの情報共有を図りました。

【みのりユニット】

2023 年度総括

職員の異動や環境の変化に、入居者様・職員がなれるまで大変な1年でしたが、コミュニケーションを大切にいい雰囲気ケア出来たと思います。ケアについて全員で話し合い意見を聞いて決めることができ、職員の気づきを大切に出来たと思います。

その方らしさを考え、一人一人の思いに寄り添ったケアを心掛けましたが、自分で発信できる入居者様を中心になってしまったように思います。来年度は居室で過ごされることが多い入居者様・ご自分で発信することが難しい入居様に、もっとアプローチしていきたいと思えます。

ご家族ともメールを活用し連絡をとり合いました。行事や日常の様子を写真で見えていたり、面会時に職員からお伝えしたりしましたが、中にはほとんど伝えることが出来ないご家族もいて、来年度の課題となりました。

2023 年度取り組み

- ① 笑顔が溢れ、一人ひとりの思いに寄り添ったケアが出来ました。
- ② 定期的に入居者様がしたい行事を開催しました。個別での外出を行いました。
- ③ 会議の場だけでなく、日々の業務のなかでもケアについて側隠間で相談し、気になったことを伝えました。
- ④ 多職種とのやり取りを大切にしました。ご家族とメールや写真などで日々の状態が分かるように伝えました。

【美冬】

2023 年度総括

生活の場を意識し、入居者様が穏やかに 1 日を過ごすことが出来るよう、職員同士で協力することが出来たと思います。

今年度は看取り対応となる方が多く、入居者様だけでなくご家族も安心して最期を迎えるにはどうすればよいかを考える日々でした。お一人お一人の状態に応じ、食事やケアスケジュールを変更し、入居者様に苦痛なく過ごして頂けるよう配慮することが出来ました。

新しい職員も入り、職員同士のコミュニケーションを深め、ユニットが明るい雰囲気になるように努めました。また、今まで以上に協力ユニットとの関わりを多く持ち、お互いのユニットが円滑に過ごせるように意見交換も頻繁に行いました。

事故やヒヤリが多く、対策・解決すべき課題を迅速に対応出来るよう、他職種を含めて相談して対応するように心がけました。しかし、申し送りが途切れてしまったり、解釈違いで報告されてしまったりしたため、正確な情報共有が来年度に向けての課題となりました。

今後も入居者様の想いに寄り添い、生活を支えていけるように努めたいです。

2023 年度取り組み

- ① 新しい入居者様の情報収集に努め、ユニットに馴染めるように配慮しました。
- ② 他職種と相談しながら、入居者様に合わせたケアを行いました。
- ③ 入居者様に楽しみを感じていただけるよう、協力ユニットとともに外出や行事を行いました。
- ④ 協力ユニット会議を行い、相互の入居者様の情報共有と連携に努めました。
- ⑤ 申し送りノートやボードを使用し、業務の明確化に努めました。

【こうめ】

2023 年度総括

ユニットの目標である“心満たされる あなたらしい暮らし”の実現に向け、チームが一丸となるにはどうすれば良いかを試行錯誤する 1 年でした。

入居者様の暮らしにおいては、「食べたい物」「行きたい場所」「買いたい物」など、普段の関わりを通して個々のご希望を伺い、他職種の協力を得ながら 1 つひとつ実現することが出来ました。入居者様やご家族、職員がともに喜びを共感しあうことで、日々の暮らしが彩り豊かになることを学ぶことが出来ました。

その一方で、ご家族との関わりにおいては、課題が残るものとなりました。面会時や体調不良時はこまめにご様子をお伝えしましたが、面会がほとんどないご家族との情報共有は、定期的に行うことが出来ませんでした。来年度は、連絡方法やタイミングを明確化し、職員の分担制を取り入れてご家族との連携を図っていきたいと思います。

職員においては、協力ユニットを交えた関係性の強化に力を入れました。笑いあったり、励ましあったり、意見交換を交え、互いのユニットの良いところを活かしながら“冬ユニット”としての総合力を高めることが出来ました。

課題となったのは正確な情報共有です。申し送り表や共有ノートへの記入漏れ、口頭のみでの伝達などにより情報が途切れ、内容が変換されて伝わるのが度々ありました。来年度に向けて、情報共有のあり方を見直していきたいと思えます。

2023 年度取り組み

- ① 入居者様の個々のご希望に応じ、食べたい物や行きたい場所、買いたい物など、可能な範囲で実現することが出来ました。
- ② ユニットの月間目標を立て、環境整備や節電など毎月1つに焦点をしばって、職員全員が意識して取り組めるよう努めました。
- ③ 入居者様の状態の変化に合わせて他職種と連携し、情報共有やケアの検討を行いました。
- ④ 協力ユニットと合同で行事担当を決め、季節を感じていただけるような催しや外出を行いました。
- ⑤ 毎月協力ユニット会議を行い、よりよいケアの検討や意見交換、情報共有の強化に努めました。

II 短期部門

【短期入所相談員】

2023 年度総括

今年度は、ショート再開から利用人数もどんどん増え、特養の空床も利用し目標稼働を上回る月がありました。

ご家族から「心配だったけど泊れるところできて良かった。ここなら泊ってもいいと言っているから助かっている」という言葉で、ショートステイとしての役割を果たしているのだと実感することが出来ました。

終末期、自宅で看ているが家族の急用や休息の為に利用したいという問い合わせに、ショートステイでできる範囲にはなりますが、主治医の先生や訪看との連携を図りながら安全に、ご家族にも安心してご利用していただくことも出来ました。その中で、利用者様の状態が不安定な場合、緊急時の連絡や対応に職員が困らず、迅速な対応が行えるようご家族やケアマネとの連絡調整をしっかりと行っていかなければいけないと感じています。

また、医務との情報共有を目的とした話し合いの場を毎月開催することで、利用者様の状態変化や急変時の対応も事前に確認することが出来てきています。今後も継続していき

いと思っています。

ロング利用の方の入院や特養入居が重なり、空きが埋められない月もある為、居宅への空き情報のお知らせを検討し、新規獲得と同時に特養待機者のロングショート利用を進め、施設全体での稼働の安定が図れるよう取り組んでいきたいと思ひます。

2023 年度取り組み

- ① ショートステイから特養への入居がスムーズに行えるように相談員同士での連携を図りました。
- ② 宮城野の里ショートと連携を図り、お互いでロング利用の方の調整や空き状況を報告し、ケアマネからの問い合わせに答えられるようにしました。
- ③ 他職種との連携を図る為に情報交換の場として毎月話し合いを行いました。

【花梨】

2023 年度総括

12月の利用再開から定期利用も増え、稼働率も徐々に上がってきた1年でした。「ここへ来てよかった、また来るね」や「いつもありがとう」等の感想を頂けることも多くありました。一方でデイサービスのようなリハビリや運動がない分、何をしたらいいかわからない方々もいました。感染対策でできることが限られる中、園芸や行事を開催するなど職員も案を出してくれました。ショートステイは様々な利用者様が利用されます。緊急でのご利用もあるので、ご家族への丁寧な対応や職員個々が知識やケアのスキルを自ら学んでいく必要があると感じました。

2023 年度取り組み

- ① 消毒や清掃を毎日行い、清潔と感染予防に取り組みました。
- ② 毎月ユニット会議を開催し、職員間での情報確認やケアに関する解決方法を話し合いました。
- ③ 季節ごとにあつた行事や外出等、ご利用される皆様へ楽しんで頂けるよう職員が意見を出し合つて開催しました。

Ⅲ各部署

【医務】

2023 年度総括

今年度は新型コロナウイルス感染症が途中から5類に移行になり、感染対策の考え方や方法が変わり、正しい情報で対応できるように研修への参加や周知する事への苦慮も多くありました。多職種で連携し協力してどのようにしていけばいいのか検討が行え、感染症の発生時も迅速な対応での情報共有から対策の実施が行え、収束までも期間が短縮する事ができました。

嘱託医や協力機関とは電話だけでなくメールを活用し、必要な情報の共有ができ、必要時の受診や往診時の面談を行い、多職種連携し嘱託医とご家族が面談で必要な医療的情報を得られる機会を多く作る事ができました。

昨年よりも看取りの方が多く、体調や食事摂取量など変化が起きてから看取りまでの期間に個人差が大きく、嘱託医との面談の前に逝去された方もいました、状態の変化に早く気付けるようにどうすればいいのか、情報の共有と正しい情報の伝え方は来年度も引き続き課題として取り組んでいきます。

2023 年度取り組み

- ① 感染症について、国や自治体からの情報を基にして正しい情報を収集し、実際に対応できるように掲示板・メールや各会議・感染委員会などと協力し対応できました。
- ② 嘱託医や協力機関と連携し、必要な医療の提供や往診・受診など円滑に行える様に、多職種連携し行えました。
- ③ 月1回医務会議を行います。会議以外でも検討が必要な事項がある場合は、ノートを活用しお互いの意見を出し合い、協力できました。

【食養】

2023 年度総括

今年度は、食事からより季節を感じる事ができるよう、お品書きやランチョンマットを食事に添える機会を増やしました。また『季節のおやつ』の提供を継続して、旬の果物を味わっていただくこともできました。

栄養管理については他職種との情報共有をこまめに行い、入居者様や利用者様の状態に合った内容の食事提供や、栄養補助等の検討を適正に行うことが出来ました。また看取りの入居者様が食べたい・飲みたいと思うものは、多職種で協力して安全な形態に加工し提供をすることができ、皆さんに喜んでいただくことができたのではないかと思います。

厨房では、食中毒や感染症の勉強会の他に手洗いチェッカーを活用して、手洗いの仕方を

見直すことが出来ました。今年度はパート職員の入退職が多くありましたが、互いに協力し業務の確認をし合うことで、大きな問題が起きることなく業務を行えたと思います。

2023 年度取り組み

- ① より季節感を味わえ、行事を楽しむことができる食事となるよう、元旦のお節料理、敬老の日、クリスマス、節分にはお品書とランチョンマットを作成しました。
- ② サービス担当者会議への参加や日頃から他職種とこまめに情報を共有することができ、入居者様おひとりおひとりの状態に合った栄養管理を行いました。
- ③ 委託業者とは食事の改善や充実を図るため、食事についてのアンケートに積極的に回答し、検食簿所見の共有を継続することが出来ました。
- ④ 食養会議では手洗いチェッカーによる手洗い方法の確認や、食中毒や感染症についての学習会を行いました。また、作業工程についての見直しも随時話し合いました。
- ⑤ 非常食は期限切れの近いものは計画的に献立に組み込み、無駄にすることなく使用し、その後の補充も迅速に行いました。

【事務】

2023 年度総括

今年度から職責会議が 2 回になり、経営に特化した会議でより深く討議できる時間を持つことができました。事務からの発信だけでなく職責全員の意見を聞ける場面も多く、資料作成や予算作成の際とても役立ちました。リーダー会議には出来るだけ職員の意見を聞くことを意識して参加しました。全職員参加の為には多くの職員の声に耳を傾けることが大切だということ強く感じた 1 年でした。

今年度は 10 年目を迎え設備の不具合の対応に追われました。設備関係（修理・買替等）の計画の作成が遅れており、突発的な対応となってしまいました。今後更に具体的に（時期や金額）計画を立てることが急務と感じています。

社会保障運動の推進役として、自分自身が情勢や民連綱領について学び深めることを目標に本部朝学習や事務研修に臨みました。1 月から職責会議でも民医連新聞での学習会を提案し実現しました。社会情勢に目を向け問題意識を持つことで今後運動に繋がっていくよう継続していきます。介護署名では全職員の学習を行ったことで署名数は過去最高の筆数となりました。

事務業務全体として、時間外の作業や業務ミスで迷惑をかける場面も多くありました。原因追求と改善へ向けた分析を行い、働き方の見直しと業務改善もしっかり行っていきたいと考えます。

2023 年度取り組み

- ① 経営報告資料作成にあたり、パワーポイントやグラフ等を活用し、より見やすい報告書作成に努めました。
- ② 設備関係の 5 年間の期計画を作成し、新たな必要利益算出を行いました。建物総合点検は 2024 年度に先送りとし、計画的に修繕を行います。
- ③ 民医連と福祉会の歴史を学んだことをまとめ、事務職員研修で共有しました。法人社会保障委員会で情勢や介護制度について学び、田子のまち職員へ選挙の呼びかけや介護署名取り組みを促す勉強会を行いました。

【研修】

2023 年度総括

今年度は、研修計画に沿って進めることを目標として取り組んできました。ほぼ計画通りに開催出来、参加者も昨今では 1 番多くなりました。開催方法は、主催部署からユニット会議での伝達研修という形にし、ユニット会議に負担のないよう、時間を考えて作成しました。リスクマネジメントや身体拘束の研修では、グループワークで意見や感想交流することで、より身近なこととして考えることが出来たので、良かったと思います。

来年度からは、必須の研修が増えます。ますます職員の負担が増えることが予想されますが、「やってよかった」と思えて、自身のケアにすぐに生かすことが出来るような内容を主催する部署と一緒に考えていきたいと思っています。

今年度、ユニットリーダー研修実施研修を 3 名が終え、ユニットリーダー研修は、1 名残っています。来年度には終了し、次のリーダー研修参加を進めていきたいと思っています。

2023 年度取り組み

- ① 研修計画に沿って進められているか確認し、開催が遅れているものは声を掛け、開催のサポートをしました。
- ② 各委員会内やユニット会議内で開催し、多くの職員が同じ内容を学べるようにしました。
- ③ 報告書提出の期限を決め、主催者に伝えました。参照資料もデータや紙で保管できるようまとめました。

月	内容	参加人数
4 月	看取りについて（看取り期のサイン、ケア・対応方法）	37 名
5 月	コロナウイルス感染症 BCP シミュレーション	38 名
6 月	食中毒について	50 名
	リスクマネジメント（危険予知トレーニング第 1 回）	38 名
	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	53 名
7 月	リスクマネジメント（危険予知トレーニング第 2 回）	33 名

8月	身体拘束廃止	43名
	リスクマネジメント（危険予知トレーニング第3回）	40名
9月	リスクマネジメント（夜間想定捜索訓練）	7名
	避難訓練、災害時BCP（浸水時の避難）	入居者様33名 +職員7名
10月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	56名
11月	感染症について	44名
	リスクマネジメント（服薬マニュアル自己チェック）	46名
12月	認知症ケアについて	48名
1月	身体拘束について	42名
3月	リスクマネジメント	48名
	避難訓練	入居者様35名 +出勤職員全 員

IV委員会

【安全衛生委員会】

2023年度総括

今年度は、働きやすく働き続けたいと思う職場づくりを目指すこと、安全衛生委員会の役割や活動について学びを深めることを目標に活動してきました。

毎月会議を行い、厚労省の資料を活用しながら委員会の役割やハラスメントの学習を行いました。普段は入居者を中心に検討がなされますが、職員の健康や事故対策等を中心に会議が運営されるので、通常と違った視点で職場を見直す機会になったと思います。また、腰痛等のケガによる職場離脱がないよう、福祉用具の活用促進や、会議前の体操の啓蒙活動も行ってきました。残念ながら今年度は腰痛による労災が1件ありましたが、来年度はこの件数が0件にできるようにしたいと思います。

職場づくりについては、どこかの誰かが頑張ることではなく、働く職員全員が参画するものとし、各個人の自覚と職場の目標を持って、取り組んでいけるような仕組みを考えていきたいと思います。

2023年度取り組み

- ① 会議は月1回の定期開催で行いました。
- ② 会議では、ユニット内の環境（温湿度、危険個所）の確認、会議前の体操の実施状況・

移乗リフトをはじめとする福祉用具の使用状況を確認しました。

- ③ 各会議前にラジオ体操を行えるよう、委員が中心となって活動し普及に努めましたが、実施状況は芳しくありませんでした。実施できていない理由から、ラジカセを会議室に設置試みましたが、改善しませんでした。
- ④ 安全衛生委員会の役割を学習しました。

【感染症対策委員会】

2023 年度総括

新型コロナウイルスの感染により各ユニットで職員や入居者様の感染が相次ぐ中、感染が拡大し二次感染が起きてしまったユニットもあり、改めてマニュアルを把握し速やかに実施することが大事と認識しました。その他の感染症もそうですが、職員は体調不良や異変を感じた際には休むことが感染源を持ち込まないこととなります。

2023 年度取り組み

- ① 定期的に学習会やマニュアルの確認を委員会内で実施し、ユニットへ周知できました。
- ② ガウンテクニックを年 2 回確認できました。ユニット内で感染しなかった職員もいるのでしっかりと対応できていたと思います。
- ③ 手洗いチェッカーを使用し、自身の洗い残しを知ることができました。冬の時期には手荒れによって洗い残しが多くみられることが分かり、感染症が流行しやすい冬だからこそしっかりと洗うことに再認識できたようです。

【褥瘡対策委員会】

2023 年度総括

今年度は、看取りになる方、皮膚トラブルになる方が多く褥瘡ゼロとはなりませんでしたが、今年より、月に一度エアマット評価表を用いて適切なマットレスの検討、使用も行えましたが、皮膚トラブル等で緊急にエアマットが必要な方も多かったです。また、皮膚の状態変化を医務へ報告するのが遅くなってしまったこともありました。皮膚トラブルを早期に発見し報告出来るよう委員会メンバーよりユニットへ再度伝達し、少しずつ報告が出来るようになっていました。

委員会内で外部での研修のボディショニングの学習会を開催し、各ユニットの方の褥瘡に対する悩み等の共有、栄養士より高リスクの方の情報も委員会内で共有が来ていました。

来年度は、月一度のエアマット評価表を継続しながら適切なエアマット使用、学習会を通し褥瘡の原因がどこにあるか、褥瘡予防について今一度各ユニットで追究していく必要が

あります。来年度も委員会が中心となり、取り組んでいきたいです。

2023 年度取り組み

- ① 10月に外部研修参加の勉強会を開催しました。
- ② 月に一度、エアマット評価表でマットレスの適正について返答・使用が出来ました。
- ③ 毎月委員会内で褥瘡の状況を報告し、情報共有を行いました。

【事故対策検討委員会】

2023 年度総括

事故対策検討委員会では、重大事故や服薬事故、ヒヤリハット事例を分析し、対策の検討と実施状況の確認、その後の評価を行いました。それぞれのユニットでの事故状況を報告し合い、把握しました。

今年度は、大きな事故として離設事故がありました。事故の状況や対策をユニットや委員会の中で話し合い、ユニット会議にて各自周知しました。

服薬に関しては誤薬撲滅委員会と連携し、服薬マニュアルの自己チェックを行いました。服薬事故もゼロにはならない為、自己チェックを元に、なぜ服薬事故は起きてしまうのか、またどのような場面で起きてしまうのかを分析・評価しマニュアルの見直しを実施しました。

9月の夜間搜索訓練は事前に当直やショートステイを含めた動きを見直し、新人職員や新しく夜勤リーダーになる職員を対象に実施しました。当直が入る事により職員の動きが大きく変更した部分もある為、来年度は夜勤に入る全職員を対象に実施していきたいと思えます。

リスクマネジメントについては今年度から KYT（危険予知トレーニング）を取り入れました。委員が中心となり各ユニット会議にて事例を元に危険を見つけ、対策を話し合いました。危険意識を高める事により、職員同士で業務に潜む危険要因を見つけ、事故を未然に防ぐ事や話し合う事によりチームワークの向上にも繋がると感じました。

来年度もリスクマネジメントを意識し、ヒヤリハットを活用しながら予防、具体的な対策を周知・実施し事故に繋がらないよう取り組んでいきたいと思えます。

2023 年度取り組み

- ① 重大事故、服薬事故、ヒヤリハットを分析し、対策の検討と実施、評価を行いました。
- ② 各ユニットで悩んでいる事例を検討し、対策案を提示しました。
- ③ 誤薬撲滅委員会と連携し、服薬マニュアルのチェックを行いました。集計結果を各ユニット会議にて報告しました。
- ④ ショートステイ、当直も含めた搜索訓練を9月と3月に夜間想定搜索訓練を行いました。

た。

- ⑤ リスクマネジメント学習会を開催しました。

2023 年度事故集計

	転倒	転落・滑落	誤嚥	誤薬・誤配	弱水	火傷	異食・誤飲	暴力	感染症	褥瘡	無断外出	介護中の骨折・あざ・外傷	原因不明の骨折・あざ・外傷	破壊・粉失	その他	計
0~3	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9
3~6	8	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	16
6~9	7	5	0	3	0	0	0	0	1	1	1	4	20	0	2	44
9~12	9	2	1	7	0	0	0	0	0	2	1	2	38	0	0	62
12~15	3	3	0	4	0	0	3	0	0	1	0	3	15	1	0	33
15~18	6	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	17
18~21	7	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	17	1	1	34
21~24	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	11
計	50	22	2	19	0	0	4	0	1	4	3	10	105	2	4	226

【身体拘束廃止検討委員会】

2023 年度総括

委員会や学習会を通して、人権擁護や高齢者虐待、身体拘束、不適切なケアへの理解を深める事が出来、発生防止にも繋がっていると思います。自分の言葉で説明出来るようにとありますが、大まかには説明出来ていても細かいところまでは出来なかつたり、難しかったりしたように思います。動画での学習に関して、長い時間のものが多くあり、仕事の合間で見るとは難しい事もあるので、短く分かりやすいものを探す事も必要かと思いました。グレーゾーンに関する報告をする際に、意見が出ない月も多くありました。実際にケアをしているとそう呼ばれるものは多くあると思うので、議題で出ないものをどうすくい上げていくかが課題だと思いました。ユニット会議でも意見を募っていますが、出ない事もあり、別の方法を検討する事も必要ではないかと思います。この会議や高齢者虐待の学習会で出た意見をユニットに持ち帰り周知する事で、日々のケアを振り返るきっかけになったと思います。

センサーマットの使用状況や取り組みを毎月確認していましたが、外す方法を皆で検討することはなかったため、センサー使用者のヒヤリハットや事故報告書の件数などを参考材料にして、外す方法を検討していく事も必要かなと思いました。

取り組みに関しては出来ていた事も多くありましたが、来年度に向けての課題も多く残ったので、来年度初めの会議で改善方法を検討する時間を設けても良いのかなと思いました。身体拘束廃止検討委員会は、他職種が参加し、様々な立場・角度から意見の聞く事が出来る委員会なので、出た意見を日々のケアに反映していけるよう取り組んでいきたいと思っています。

2023 年度取り組み

- ① 毎月の会議内で話しをする場を設け、意見を交わし、日々のケアを振り返る事が出来ました。
- ② センサーマットの使用状況や取り組みを毎月確認していたが、外す方法を皆で検討することはなかったように思います。ただ、各ユニット内ではマットの必要性を議論出来ていました。
- ③ 計画通りに学習会を行い、職員全体でも意見を交わす事が出来ていました。
- ④ 毎月第 1 金曜日 15：30 から委員会を開催する事が出来ました。

【入浴委員会】

1、2023 年度総括

今年度は特浴清掃を入浴委員中心となり月ごとに他ユニットと交代で清掃を行いました。委員会会議後には委員で掃除や点検を行いました。また、物品補充や細やかな清掃を入浴時以外でも定期的に行うことが出来ました。前年度に作成した薬液補充の手順・特浴の清掃方法について写真付きの張り紙を掲示し、誰が見ても分かるように工夫をしました。

特殊浴槽の使用については、1・2 階どちらも急遽使用する際や中止する際は他ユニットへ連絡し、予約表の変更を忘れず行うように周知しました。ユニットによって使用の人数が多い所もあり、譲り合いながら使用しました。

個浴、特殊浴槽の故障やマット等の劣化については、早めに報告し、購入・修理を行いました。

2、2023 年度取り組み

- ① 浴室清掃・物品補充のチェック表を新たに作成します。担当振り分けを明確にし、浴室の清潔を維持しました。
- ② 各ユニットから入浴に関する相談等あれば、委員会で意見交換をしました。
- ③ 物品の劣化や破損があれば都度点検や購入の手配をしました。

【排泄委員会】

2023 年度総括

入居者様に適した排泄環境を整えられるよう、委員からユニット職員へ提案・相談する機会を増やすことが出来ました。日々のケアでの気づきを委員会で振り返り、ユニットでの排泄コントロールや環境整備に活かすことが出来ました。

医務や栄養士と相談し、入居者様の負担が少なく排泄をコントロールできるように努め

ました。入居者様の体調により、排泄リズムが変わる事も多く、その度に調整しながら適切な排泄コントロールを目指しました。

その他の業務に追われ、トイレ掃除が行き届かないこともしばしばあったようです。入居者様のプライベートな空間という事をユニット全体で意識できるように、もっとユニット会議などの場で委員から働きかけが出来ればよかったです。

生活の中で排泄はとても大切なケアであることを再度ユニット職員へ意識づけして、入居者様が安心して暮らせるように、今後も排泄の課題解決に取り組んでいきたいです。

2023 年度取り組み

- ① 適切な排泄ケアを目指し、パット類を選定し、コスト削減に努めました。
- ② 適切な排泄コントロールが出来るよう、他職種と相談しました。
- ③ トイレやベッド周辺の排泄ケア後の環境整備に努めました。
- ④ パットの在庫を溜め込まないように、他ユニットと情報共有し、協力しました。

【ボランティア委員会】

2023 年度総括

今年もコロナ過でも、お茶会や天童清貴コンサートなど、入居者様が楽しめる行事が出来ていたと思います。その中でも一番大きいのは、10周年記念祭を盛大に行なうことが出来た事です。コロナが始まってから外部のボランティアの受け入れが出来なかったのですが、記念祭にはボランティアさんに来ていただき、民謡、フラダンス、すずめ踊りを披露して頂けたことにより、入居者様の笑顔が見られたことが良かったと思います。他にもワニワニパニックや腕相撲のゲームをし、ソフトクリームや綿あめを食べて、いつもと違う表情を見られたことも良かったです。また外部のボランティアの受け入れや準備に関しても、メールや電話等で交流を続けていた為、記念祭の連絡や受け入れもスムーズに出来ていたと思います。今後もコロナの状況を見ていきながら、入居者様が楽しめる行事が出来れば良いと思います。

2023 年度取り組み

- ① 感染対策をして行事を行ないました。
(お茶会、10周年記念祭、天童清貴コンサート、お買い物イベント)
- ② 外部ボランティアさんとの交流を続けていました。

【広報】

2023 年度総括

昨年に引き続き、年 2 回の広報誌の発行をすることが出来ました。今年度はコロナウイルスが 5 類に移行となり施設でもできることが増えたので、ここ数年の中では一番入居者様の動きのある広報誌を発行できたと思います。10 周年記念祭もあり、前年度よりも多くの入居者様の様子を伝える事が出来ていたと思います。入居者様の素敵な笑顔で楽しんでいる様子を広報誌に掲載することができ、見て楽しい広報誌発行をすることが出来ました。また、内容も委員でしっかりと話し合い、号によって写真の掲載方法をテーマに沿って乗せる等工夫も行えています。今までのユニットによって似た写真ばかりにならぬよう、バリエーションを増やし発行が出来て良かったです。

面会制限は少し緩和されましたが、施設の様子をお伝えする機会があまりない状況です。ユニットごとの日常や、ユニット企画、外出企画等の写真も載せる事で、入居者様が普段どのように田子のまちで過ごしているか、田子のまち全体の今をご家族や地域の方にも知って頂く内容を広報誌でお届けできたのではないかと思います。

反省点は、掲載NGの方もいらっしゃるので写真選びが難しく、選びやすい入居者様の写真に偏ってしまった部分もあった為、バランスよく掲載できれば良かったと思います。また、ページ数が少ない中で内容の充実不足が見られました。広報誌作成にあたって、委員だけの意見で広報誌作成されていた為、田子のまち職員全体、入居者様、ご家族や地域の方にも広報誌の感想や意見を聞いてみたかったなと思います。来年度、広報委員会はありますが、今後も各ユニットでの写真撮影の機会を増やし、ご家族に田子のまちでの入居者様の様子を発信できるように出来たらと考えています。

2023 年度取り組み

- ① 年 2 回の広報誌発行を行いました。
- ② 時間ない中、必要に合わせて開催出来ました。
- ③ 情報共有しながら漏れのないように広報誌に反映できたと思います。
- ④ 興味があるものや読みたい内容を伺うことが出来ませんでした。
- ⑤ 行事だけでなく日常の様子も掲載することが出来ました。

【高齢者虐待防止委員会】

2023 年度総括

今年度の目標は「高齢者虐待は絶対に許さない」という施設の姿勢を明確化すること、苦情や事故は迅速な対策検討を行い、対象者へ誠意ある対応を行うというものでした。虐待防止については、身体拘束廃止を含む基礎知識を反復学習することで、全職員の意識が底上げされていることを実感しています。しかしながら、ストレスチェックやセルフチェック等を

通し、チームワークの未熟さや、会議で意見しづらい環境下であることが露呈されたのも事実で、前進するための課題が見えたと思っております。

虐待を防止するには、職員自身の精神衛生が良好に保たれることが必須で、そのためにも心理的安全性が担保される職場醸成が求められます。また職員一人ひとりの考え方や価値観、正義感に偏らず、皆で目標を定め同じ方向を目指すことも重要な取り組みの一つだと感じています。次年度も高齢者虐待防止の基礎作りと働きやすい職場づくりを両輪として、更に発展した取り組みが行えるよう、多職種で話し合い、他委員会と共同し、高齢者虐待防止を推進していきたいと思っております。

2023 年度取り組み

- ① 6月と10月に学習会を開催しました。
- ② 10月の学習会では、資料を作成し、各現場で学習を行いました。
- ③ 今年度は虐待につながる案件はありませんでしたが、気になる事故や苦情は職責会議で検討しました。
- ④ セルフチェックを基に職員面談で職員各々の振り返りとフィードバックを行い、委員で情報を共有しました。

【社会保障委員会】

2023 年度総括

毎年、委員会の出席率が良くありませんでしたが、委員の参加が出来るように事前の連絡や参加しやすい時間に委員会の時間を変更することで、出席率を上げることが出来ました。また、社会保障や委員会の意義を職員全体への周知がなかなかされていないことが課題の一つでしたが、今年度、委員会への出席率がアップしたことで、周知され、職責が筆頭に各ユニットで学習会も行い、職員の理解が進みました。今後も継続し、理解を深めていきたいと思っております。

活動では、4年ぶりに行われた福祉ウェーブに委員と職責の7名が参加しました。久しぶりの福祉ウェーブということで今回は委員と職責のみの参加になってしまいましたが、今後は委員や職責以外の職員への参加を促していければと思います。署名活動では、保育署名は目標に達することが出来ましたが、介護署名は目標に達することが出来ませんでした。ですが取り組みについて事前に伝えることが出来、職員やご家族の方々に理解して頂き多くのご協力をいただくことが出来ました。財政活動では宮城野の里と協力し行うことが出来ました。その際、目的や結果を報告することで職員の理解を得られたと思っております。活動についてはここ数年、事前に活動の目的を伝え事後は結果を報告するということを徹底してきました。そのことで少しずつですが、理解し協力して頂くことで増えてきていると感じます。今後も職員全体で取り組んでいけるよう少しずつ分かりやすく丁寧に継続していきたいと思っております。

思います。

2023 年度取り組み

- ① 委員会の出席率を高める為に、参加しやすい時間（13 時半～）に行い、日時を前日に伝え、出席の有無を確認しました。
- ② 社会保障について委員以外に職責をはじめ各ユニットで学習会を行いました。
- ③ 福祉ウェブへ委員 4 名、職責 3 名の計 7 名が参加しました。
- ④ カンパ活動は宮城野の里と協力し数回行うことが出来ました。
- ⑤ 介護署名は 583 筆(目標 700 筆)、保育署名 250 筆(目標 210 筆)集めることが出来ました。

【2023 年度苦情報告】 3 件

・入退院に関することが家族に連絡なかった。病院と施設でやり取りしている内容について事前に連絡が欲しかった。(家族様より)

〈経緯・回答〉病院からの状況報告や退院調整については、病院から同じ内容をご家族に連絡していただくことを徹底し、改善を図りました。

・職員の話し方がきつく感じた。(家族様より)

〈経緯・回答〉職員が内服薬について説明した際に、職員から否定的な言葉を言われて、ご家族に不快な思いをさせてしまっていました。コミュニケーションの基本を再度職員で学習しておりますが、継続的に取り組む課題と感じております。

・ナースコールで用事を頼んだが、すぐにやってもらえなかった。(入居者様本人より)

〈経緯・回答〉他の方のナースコールも重なってしまったという状況ではありましたが、入居者様にケアの内容や説明を怠っており、職員への不信感となっていました。職員へ個別に指導しております。